会から田母神氏に送った講演依頼文です

2010. 5. -7

写

株式会社田母神事務所
磯尾様

田母神先生へ平成22年8月6日の御来広願い

前略

突然の手紙をお送りして、失礼致します。私は池中美平と申します。
私たちは今、広島において新たな被爆者団体である「平和と安全を求める被爆者たちの会」（仮称）という名の「会」を設立準備中です。この「会」を設立する機運となったのは、昨年の8月6日における、日本会議広島の主催した「広島の平和を疑う」というリードのついた田母神先生の講演会でした。市長を初め、様々な妨害活動のあった中で、講演を支持した被爆者や二世三世たちが集まったものです。

広島の既存「反核団体」の唱える「核廃絶」一本槍の行動に、少なからぬ違和感を私たちは持っていました。しかし、このような意見はメディアなどに現れることはなく、いわば、封じ込められてきたのです。昨年の田母神先生の講演会は、このような被爆者や二世三世たちが多くいることを衆知する良い機会となりました。ありがとうございました。

今の「反核運動」が、必ずしも大方の被爆者達の意思を反映したものとは言えない現実をもっと広くつたえなければいけないと思い、このような集まりを作る機運が出てきました。

そのような意見をもつ幾名かが、日本会議広島様に相談をしたところ、協力を得られることになりました。そこにも多くの被爆者や二世三世の方がおられたことを知ったときには、意外な感じがありましたが、それだけに余計、この「会」をつくる気持ちが強まっていったのです。

まだ設立準備中ですが、今年（平成22年）も原爆忌の日に田母神先生のお話を聞くことが、既存団体とは違う意見をもった被爆者たちがいることを衆知するには絶対に必要なことだ、と私たちの気持ちが一致しました。日本会議広島様に聞いたところ、すでに当日の先約団体があり、今年は先生の御来広はないとのこと。私たちは、その先約団体のことを知り、私たちの思いを度重ねて真剣に話したところ、「田母神先生の御了解が得られれば、まだこちらも準備段階なので、私たちに譲れる可能性はある」と言われる所までこぎつけました。最終的確約を得るべく、交渉を続けておりますが、ほぼ私たちの要望に応えて頂ける状況です。もし、田母神先生に御来広頂けたら、日本会議広島様に私たちの「会」は協力して、講

2010. 5. －7 写

演会開催を準備いたします。

最終確約を得られたら、電話など最短手段で連絡いたします。何卒、私たちの希望を叶えて下さい。心からお願い申し上げます。状況途中ですが、一刻も早く、田母神先生に私たちの気持ちを伝えていただきたいので、この手紙を差し上げる次第です。何卒よろしくお願いいたします。

早々

“「会」の事務局を担当する予定の”　池中美平　拝 池

平成 22（2010）年 5 月 7 日